

東北大学附属図書館報

木這子



BULLETIN OF
THE TOHOKU UNIVERSITY LIBRARY

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

TAINS と図書館情報処理システム T-LINES

(本館調査研究室員) 石垣久四郎
(本学電気通信研究所助手)

TAINS とは、本学における学術研究・教育にかかわる情報処理、伝達などが現在急速な勢いで進展している高度情報化社会における処理形態に対応することを可能とする『東北大学総合情報ネットワークシステム TAINS (ティンズ: Tohoku University Academic/All-round/Advanced Information Network System)』である。すなわち、近年の情報処理技術及び通信技術の目覚ましい発展と同時に、その両技術が高次的融合化によって到来してきた情報化社会は、“誰もが、いつでも、どこからでも、どんな情報でも、自分に適合した形に加工し、それを迅速・的確に活用することができる”という社会である。つまり、大学の全キャンパスからより高度の、そしてより多機能の情報処理システムを場所と時間とに関係なく利用したいという我々の夢がかなえられる日が到来しつつある昨今である。

東北大学情報科学委員会では、このような社会情勢に対処するために、昭和58年5月情報科学第一専門委員の下に「情報処理システム計画検討小委員会」を設置し、本学における学術情報処理システムのあるべき姿の検討を開始した。そして同小委員会の答申を受けて、昭和59年2月、『東北大学総合情報処理システムの基本構想』を明らかにした。その後、昭和60年2月、情報科学委員会第一専門委員会では、これを基調として TAINS と愛称される『東北大学総合情報ネットワークシステム』の構想をまとめ、情報科学委員会に提出した。情報科学委員会では、この構想の早期実現が今後の本学における学術研究の維持推進にとっ

て極めて重要であると認識した。

このような全学的認識のもとに、この構想の早期実現化及び国内外の大学における構内ネットワーク (LAN) のプロトタイプとなることを目指し、情報科学委員会第一専門委員会は、昭和60年6月、ネットワークシステム検討小委員会を設置して、さらに多方面から詳細な検討を加えた。この小委員会では、この基本構想が全学の要望を果して満たしうるか否かを具体的に明らかにすることが早期実現化のために最も重要であると認識し、約半年を費やし各部局の要望を詳細に調査すると同時に、TAINS のシステム構成を具体的に検討し直した。同年12月にその検討結果の報告書〔東北大学総合情報ネットワークシステム (TAINS) に対する要望調査〕を作成した。そしてこの報告書をもとに先に答申されたシステム構成を具体的に検討し、いくつかの改善及び修正を行ない、昭和61年2月、『東北大学における総合情報ネットワークシステム=TAINS=の構想』をまとめ、TAINS の基本構想及び具体的なシステム構成が固められたのである。

以上のように、全学が一丸となり鋭意努力の結果、TAINS の構築のための概算要求が昭和62、63、64年度の3ヶ年実施で認められ、情報科学委員会及び同第一専門委員会は本年4月に実施計画の具体的検討及び作業を行なうための TAINS 専門委員会、同技術検討小委員会、技術検討作業委員会などを設置した。同各種委員会は種々の調査及び技術的検討を精力的に行ない実施年度地区の決定、TAINS のシステム仕様書、機器の設置と

付帯工事、光ファイバ・同軸ケーブルの仕様などをまとめた。(8月10日 官報公示)しかし、その間、政治・経済情勢が急変し、補正予算・前倒し方式(内需拡大)による実施がほぼ確定的となり、当初の年次計画が2ケ年に短縮されるのである。したがって、青葉山地区(工・理・薬)に加えて川内地区の一部(図書館・情教センター)、片平地区(研究所・大計センター・事務局)が本年次に構築・整備されることになるのである。

ところで、この TAINS は、本学の情報処理・伝達にかかわるコンピュータ、端末などのあらゆる機器の集合体で、全学を網羅する光ファイバを幹線のデータハイウェイとする高速な多目的デジタルデータ通信網(通信ネットワーク)を構築し、ハードウェア、ソフトウェア、データなどの資源を共有できるよう結合したものである。その目的とするところは、単に計算処理のみならず、データベース、画像、計測データ、日本語文書などの処理と伝達とを可能とし、さらに研究・教育及び大学事務を対象とする開かれた学術向き総合情報システムである。この本学における学術向き、多目的ネットワークシステム TAINS は、次のような各種機能の具備を当面の目標としている。

①各種情報検索 ②データベース構築 ③科学計算処理 ④計測データ処理 ⑤画像データ処理 ⑥CAD/CAM/CAE の実施 ⑦図書館情報処理 ⑧学術文書処理 ⑨電子メール ⑩CAI の実施 ⑪医療情報処理 ⑫事務・教務の支援 ⑬学外広域ネットワークとの結合 ⑭パソコン間通信 ⑮高品位イメージ情報集配信処理 ⑯テレビ講義の実施 ⑰ビデオテックスなどである。

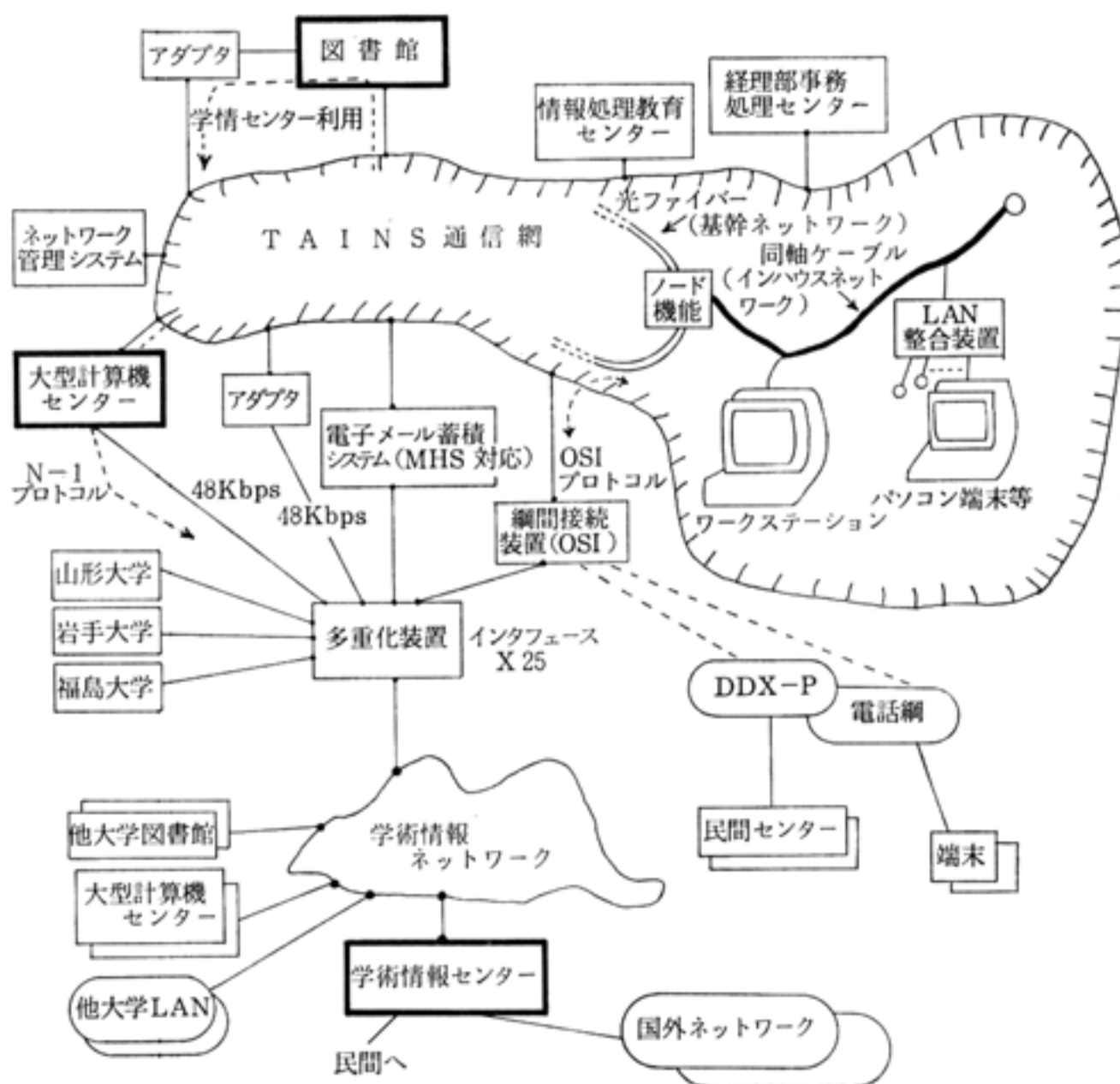
しかしながら、基本構想所要額に対する予算額の比率、研究開発途上にあるいくつかの技術的諸問題、本学環境の物理的諸問題などから、これらの全ての処理機能を網羅したシステムがこの2ケ年の実施期間で完成することは、困難であると推

測されるが、将来的な拡充をも考慮しつつ、ある部分は段階的に着実に構築化を進めていくものと考えられる。

また、キャンパス間・建物間の光ファイバによる幹線高速デジタルデータ網(リング型ネットワーク 100Mbps 以上)、同軸ケーブルによる各建物内インハウスデータ網(バス型ネットワーク、10Mbps)などデータ通信網の布設及びそれらを結合・接続するための各種インタフェース機器、外部網間との接続機器、各種情報処理システム、ネットワーク管理システムなどの設置は実施期間中に当然完成するであろう。いずれにせよ、学術向き、多目的ネットワークシステム TAINS 基本構想にある全機能の早期実現化には若干の問題(壁)があるとしても、本学にこの高速学術情報流通網が実現するのである。そして、TAINS の実現は、今後、本学の研究・教育環境を飛躍的に高める極めて重要なインフラストラクチャとなることは、間違いないことである。

さて、以上のように TAINS の実施計画の経緯とシステムの基本構成について概略的に説明してきたが、以下に TAINS と図書館情報処理システム T-LINES との関係について触れてみる。すでにご存知のように本学附属図書館では、業務電算化のために昭和61年度予算により同年12月末日にコンピュータシステム機器を導入した。T-LINES は本館(川内)にホストシステムを置き、端末システムとして本館内、4分館、15部局図書室など合計80台の図書館専用端末を設置し、それらを NTT 専用回線・構内回線・同軸ケーブルで結ぶ全学的オンラインシステムを基本とした。そして図書館業務のすべてを網羅し、各業務処理が有機的に連結するトータルシステムとして開発・構築している。システム全般の開発も予定通り進みほぼ完了しつつある。一方、全国学術情報ネットワークの一環として NTT の DDX 網を使ってパケ

T A I N S と図書館システム及び外部網との接続形態概念図



ット交換方式により学術情報センター間とコンピュータネットワークを早期に実現し、すでに、ネットワークを介して本学及び全国における学術図書・雑誌の書誌/所在情報に関する総合目録データベースの構築を行なっている。また、学術情報センターは、学術情報ネットワークの基盤整備事業として昭和61～64年の4ヶ年計画で、全国に高速デジタルデータ通信網（学術情報 VAN）の構築を実施している。本年度は、東北大・弘前大・北大と九大までの実施で、本学では来年1月に接続を完了し2月から学術情報 VAN によるネットワーク処理を稼働する予定である。

このように、本学における教育・研究に供することを意図し、トータルシステムとして開発・構

築中の T-LINES は、本学のキャンパス構成環境と図書館機能の体制及び学術情報ネットワーク形成などの関係から、TAINS と効率的/効果的に連結し TAINS の諸機能を使用することによって得られる効用は極めて大きいものである。すなわち、(1)、画面エディタ方式のより高速なデータ転送の実現化 (2)、データ通信処理費用の軽減化 (3)、本システム処理能力に依存するが、専用端末及び一般端末（検索向き）の増設・接続時の容易化 (4)、高品質イメージデータ送受信処理機能によるより敏速なカレント・コンテンツサービス、複写サービスなどの実現化 (5)、電子メール機能による効率的な OA 化の実現などシステムの充実・拡充及び経済性の高いシステム管理・運営が可能になると期待できる。（図参照）

第34回 国立大学図書館協議会総会

標記総会が去る7月1日、2日の両日、当番地区関東地区協議会、当番館群馬大学附属図書館により、緑深い草津ホワイトタウンホテルにおいて開催された。

総会には96国立大学から附属図書館長以下事務（部・課）長等240名が参加、文部省からは西尾学術情報課長、安達調査官、平井大学図書館係長、秋山事務官が列席した。

山崎会長（東大館長）の開会の挨拶に始まり、一般経過報告の後、協議に入り、協議会事業の拡大と進展による「会費の値上」が審議され承認された。本年度の事業計画として①学術情報システム特別委員会は継続し、「大学図書館のシステム化—図書館ネットワーク構築のために—」（ネットワーク専門委員会第一次報告書）に引続き調査研究を行う。②相互貸借の推進方策調査研究班並びに専門職員採用状況等調査研究班についてもそれぞれ報告書が提出されたが2班とも継続する。

③円高等為替相場の激しい中で外国出版物購入に係る諸問題を調査する「外国出版物購入価格問題調査研究班」を新たに設置する。④協議会活動の理解を広め、かつ大学図書館のシステム化等、現時的問題に関する意見等を吸収するための「シンポジウム」を、本協議会と当該地区協議会の共催により二地区で開催する。

研究集会では「今後における学術雑誌の収集と利用について」をテーマに曾山愛媛大館長、藤川図書館情報大館長、浅野大阪大事務部長、森一橋大整理課長から意見発表があり、テーマをめぐって種々討論された。

翌日行われた二つの分科会と全体会議では活潑な意見交換が行われ、これらの結果を踏まえて①学術情報ネットワークの整備促進 ②学術図書・雑誌購入費の増額 ③図書館施設の整備拡充の三点を柱として取りまとめた要望書を、文部省並びに関係省庁に提出することになった。

昭和62年7月11日

図書館学研究報告の誌名変更及び投稿規定について

＜昭和62年7月改正＞

調査研究室長

※誌名変更

1. 『図書館学研究報告 (Studies in Library Science)』を改めて、『東北大学附属図書館研究年報 (The Annual Reports of the Tohoku University Library)』（以下本誌という）とする。

※投稿規定

1. 本誌は、東北大学附属図書館構成員（本館・各分館・各部局図書室及び本学記念資料室に勤務する教職員）による学術的研究発表の場として、年1回発行するものとする。

2. 本誌は、図書館学並びに隣接諸科学における論文・調査報告を内容とする。
3. 本誌の編集は、調査研究室において行い、編集委員長は調査研究室長をもってあてる。
4. 本誌の発行及び送付に関する事務は、総務課において行う。
5. 執筆要項は、次の通りである。
 - (1) 本誌に発表する論文等は、いずれも他に未発表のものに限る。
 - (2) 原稿は、縦書きないし横書きとする。
 - (3) 申し込みノ切は各年度7月1日とし、原稿提出日は各年度9月1日とする。

記念資料室だより

○記念資料室では、本学創立80周年記念事業の一環として、当室所蔵資料の展示会を去る6月19日から1週間にわたり開催した。展示資料は総数350余点、その中には今回はじめて公開する資料数十点（例えば、学徒勤労動員日誌・イールズ事件関係文書綴など）も含まれる。今回の展示会では、当室2階にある展示室の広いスペースを有効に活用すべく、資料群を系統的に配置し、秩序ある展示を行うことに特に留意した。展示会開催期間中は概ね天候に恵まれたが、6月20日（土）のように集中豪雨を思わせるような悪天候の日もあり、そのようななか、傘を片手に熱心に資料にのぞきこむ人の姿には何かしらの感動さえも覚えた次第である。展示会の来観者は7日間合計1044名を数え、当初の予想を大きく上回るものであった（※表参照）。河北新報など、在仙マスコミ各社により展示会が大々的に取り上げられたこともその一因であろう。

○前回の「記念資料室だより」から今日までの間の興味深いトピックを一二紹介したい。まずは、東北大学の紋章について。

「東北大」の文字の周りに宮城県の県花の萩をあしらった紋章（※図）を、大学生協の商品などを通し御存知の方は多いと思う。この紋章について、通研から「研究所の用箋に使用したいが、本

当に本学の紋章か」との問い合わせがあった。そこで、当室が当該紋章の由来について調査したところ、文書等の公式の記録ではないものの、「イールズ事件」（昭和25年）の後、当時の学生の間から東北大学を表す紋章が欲しいとの声があがり、それに応える形で学友会生活部（当時）がデザインを公募して、当該紋章を定めたとの経緯が明らかとなった。庶務部法制掛によれば「当該紋章を大学の紋章として公式に認めたことはない」とのことであり、その使用法には今後若干注意する必要があるだろうが、制定から約35年を経、それが学生に定着していることも事実であろう。日頃見慣れた紋章にも歴史があるものである。

次に、先日、玉虫静氏より画帳3冊が当室に寄贈された。玉虫静氏は、安井曾太郎画伯の代表作「玉虫先生像」（当室所蔵）のモデル旧制二高校長玉虫一郎一氏の御子息で、自らも旧制二高・本学教養部の教授を勤められた。画帳に収められた作品は、仙台在住が長い向には懐かしい旧仙台市街の風物など100点余に及び、いずれも素人の手になるとは思えない秀作である。御本人の意志により当分の間公開できないことは甚だ残念ではあるが、阿部次郎教授などに代表される文人学者の姿をここにも垣間見る思いがした。

（山谷記）

一表一 展示会来観者数

曜日	6月19日 (金)	20日 (土)	21日 (日)	22日 (月)	23日 (火)	24日 (水)	25日 (木)	合 計
人数	127名	101名	222名	205名	112名	122名	155名	1044名

一図一



製本済雑誌データベース 構築関連作業について

本年4月に運用を開始した T-LINES の検索システムでは、本学が所蔵する雑誌の誌名とその所蔵巻号を画面上で見ることができますが、希望する雑誌の何巻が学内のどこにあって、今すぐ利用できる状態にあるかどうかの情報までは判りません。

附属図書館は、「今、利用することができるか」までの情報を即座に提供するためのデータベース形成を目指し、そのための前処理作業をはじめとする一連の作業を、7月30日から11月末日までの予定で実施中です。本年度は和文雑誌を対象に行ない、次年度は欧文雑誌について同様の作業を実施する予定です。

作業内容は、製本済の雑誌1冊毎に資料番号を印字した「図書ID」シールを貼付し、その雑誌に与えられている「学術雑誌総合目録」上での書誌ID番号と所蔵巻号・発行年次等をOCR（光学的読取り）用データシートに1冊毎に記入し、それを機械的に読取って、データベースを構築しようというものです。

今回の作業は、開学以来80年間に蓄積された全学で約18万冊に及ぶ和文雑誌を、短期間で一挙にデータベース化しようというのですが、本学所蔵誌中には「学術雑誌総合目録」に書誌IDがなく、新たに書誌データを作成しなければならないものも数多く、かなりの困難が予想されています。

しかし、それらはひとたび書誌データを作成することにより、本学の全所蔵誌についての調査がし易くなり、研究を裨益することになるでしょう。

この作業が完了しデータベースが構築されると、利用者にとっては、希望する雑誌の所蔵の有無、所在箇所、利用可能等の情報が迅速に得られるだけでなく、資料IDをOCRハンドスキャナーで読取ることにより貸出・返納手続きが簡素化され、又同時に本・分館と各研究室間の長期貸出等についても、適確な資料管理が効率的に行なえることにもなるでしょう。

目録システム講習会

本学図書館情報処理システムは本年1月末に稼働を開始し、4月から各業務サブシステムは順次本稼働に移行している。このため、各業務の本稼働移行にあたり、全学の業務担当者を中心に各業務サブシステム運用のための研修、説明会を随時行ってきた。

目録業務については、昨年11月末から今年5月末までの約6ヶ月間、全学目録担当者を対象に目録システム講習会を実施し、6月からシステムによる目録業務を開始している。

目録業務のシステム対応は、学術情報センターへの書誌・所在情報の登録及び全学総合目録デー

タベースの構築である。したがって講習内容は、日程の前半は学術情報センター対応を中心に、後半は学内目録対応の内容が盛り込まれた。

講習の概要は下記のとおりである。

1. 日程、時間数

昨年11月末から今年5月末まで1回4時間とする13回60時間（最後の2回は1回8時間）が当てられた。

2. 内容

- 学術情報センター目録システムの概要
- 入力基準と検索
- ワークシートによる目録実習、端末機操作

- 法、オンライン目録検索の実習
- 教育モードによる目録登録実習
- 学術情報センターへの書誌、所在情報の登録から学内 DB 登録までの実習

3. 講師

阿部佳市（医学分館）、菊地房雄（本館）、松井好次（本館）、米沢誠（本館）

「図書館電算化目録業務講習会を受講して」

北青葉山分館 藤 沢 和 子

目録システム本稼動も、はやいもので二ヶ月が過ぎました。目録処理にまわってくる図書を手にとり、心もとなく端末にむかい、それが学情センターにすでに登録されていると安心し、検索を重ねても見当らない時には渋面、というスリリングな毎日には変わりありませんが、この頃は少し慣れたせいでしょうか、ほとんど連日といってもよかったほどの「救済」を求めている講師だった諸先生への電話も心持回数が減っているのかも知れません。

思えば大変長期にわたって丁寧な講習を受けたことです。例に出して恐縮なのですが、私は二月に三日間、学情センター主催の目録システム講習会も受講したのですが、その時はすでに学内の目録講習会を受けていたおかげで全くの白紙という

のではなく、非常に助かりました。もっとも、その成果はと問われても、私にとっては短期間だったこと、端末操作にあまりにも不慣れだったこと、また目録の多様性にも具体的な認識が欠けていたことなどから折角の機会を生かしきれなかったことも事実でした。学内の講習会は特に実習で数多くの図書にあたることにより豊かな広がりを持ち学情センターでの講習とはまた違った手ごたえを感じていたものです。講習が長期だったこと、参加人数の多かったことなどから、講師の方々のご努力と、支援にあたられた方々のご尽力は大変なものがあったと思います。いただいた「東北大学附属図書館目録システム講習会」の修了証書の重みに恥じぬよう、私なりに勉強して行きたいと思っております。

整理課 和漢書目録掛 相 川 晶 子

時代の趨勢とはいえ、どちらかといえば避けて通りたいと思っていた電算化業務—自分の中でうまく切り換えがいくだろうか、操作を覚えきれんだろうか、知らない事が多い丈に不安が先に立ち、もう一方では電算化の前作業としての共同作業で遅れた整理業務の処理に頭を痛めている状況の中で、昨年11月からの目録システム講習会が始まったのでした。

初めは、頭の上を掠めていってしまうような話も、講師の方々のお蔭で、少しずつ馴染みとなってきました。講師の方々は、システム構築に直接携わっていて、会議に次ぐ会議で、それ丈で多忙な中を、全学図書室目録担当者全員を対象とした講習会を準備し、全員を落ちこぼれなく教育する労苦は、並大抵ではなかったろうと、ただただ敬

服するのみです。本稼動後の現在も、まだ端末操作も不馴れな上、ちょっとした事ですぐ躓いていて、教えを乞う事がしばしばですが、心よく応じてくれているので、安心してやっています。

ともすると周りがスムーズに入力しているのに、「自分はまだこれだけしか…」と思ってしまうこともないではありませんが、「無理はいけない！」と自らに言い聞かせ、「入力競争」だなんて事にだけは卷込まれることなく、掛内での意志疎通をうまくし、解らない所はお互いに聞き合って仕事を進めるようにしたいと思っています。その事によって、早く図書が整理でき、利用しやすいDBを作っていく事が出来るとするなら、多大な労力と時間を費やした諸準備作業も徒労ではなかったと思える事でしょう。

昭和61年度下半期文献複写実績

国立大学等図書館間で取扱われた文献複写の本学に於ける昭和61年度下半期（10月～3月）分実績は下記のとおりです。

図 書 館 名	支払区分	受 付		依 頼	
		件 数	金 額 (円)	件 数	金 額 (円)
附 属 図 書 館	校 費	298	248,465	115	344,904
	私 費	161	138,490	190	174,335
	合 計	459	386,955	305	519,239
医 学 分 館	校 費	1,321	586,255	132	61,770
	私 費	705	281,655	232	103,730
	合 計	2,026	867,910	364	165,500
工 学 分 館	校 費	349	193,610	209	104,690
	私 費	25	6,910	1	5,380
	合 計	374	200,520	210	110,070
農 学 分 館	校 費	316	121,115	63	25,715
	私 費	62	24,350	81	38,960
	合 計	378	145,465	144	64,675
北 青 葉 山 分 館	校 費	567	462,000	115	117,135
	私 費	58	38,935	83	40,225
	合 計	625	500,935	198	157,360
理学部附属臨海実験所	校 費	2	1,530	0	0
	私 費	2	1,530	0	0
合 計	校 費	2,853	1,612,975	634	654,214
	私 費	1,011	490,340	587	362,630
	合 計	3,864	2,103,315	1,221	1,016,844

昭和61年度下半期（10月～3月）分文献複写受付および依頼国立大学等図書館別実績は下記のとおりです。

図 書 館 名	受 付			図 書 館 名	依 頼		
	支払区分	件数	金 額 (円)		支払区分	件数	金 額 (円)
北 大 図	校 費	0	0	北 大 図	校 費	5	30,511
	私 費	15	6,205		私 費	11	13,155
	合 計	15	6,205		合 計	16	43,666
岩 大 図	校 費	15	14,225	筑 大 図	校 費	6	10,880
	私 費	15	20,215		私 費	10	3,815
	合 計	30	34,440		合 計	16	14,695
宮 教 大 図	校 費	18	6,525	東 大 図	校 費	14	63,058
	私 費	2	855		私 費	21	44,690
	合 計	20	7,380		合 計	35	107,748
福 島 大 図	校 費	41	12,115	東 芸 大 図	校 費	0	0
	私 費	0	0		私 費	16	4,075
	合 計	41	12,115		合 計	16	4,075
埼 大 図	校 費	0	0	東 工 大 図	校 費	14	6,515
	私 費	10	23,570		私 費	0	0
	合 計	10	23,570		合 計	14	6,515
新 大 図	校 費	9	6,635	一 橋 大 図	校 費	14	32,000
	私 費	4	2,880		私 費	8	20,855
	合 計	13	9,515		合 計	22	52,855
富 山 大 図	校 費	12	1,770	名 大 図	校 費	7	26,340
	私 費	0	0		私 費	12	4,910
	合 計	12	1,770		合 計	19	31,250
京 大 図	校 費	0	0	京 大 図	校 費	13	84,635
	私 費	11	9,695		私 費	16	10,545
	合 計	11	9,695		合 計	29	95,180
阪 大 図	校 費	1	960	阪 大 図	校 費	2	12,095
	私 費	11	5,455		私 費	12	29,065
	合 計	12	6,415		合 計	14	41,160
佐 賀 大 図	校 費	16	27,125	広 大 図	校 費	4	37,905
	私 費	0	0		私 費	10	7,230
	合 計	16	27,125		合 計	14	45,135
そ の 他	校 費	186	179,110	そ の 他	校 費	36	40,965
	私 費	93	69,615		私 費	74	35,995
	合 計	279	248,725		合 計	110	76,960

本館で受付および依頼件数の多い上位の国立大学図書館を掲げた。

昭和61年度図書受入冊数調

(単位: 冊)

種 別 部 局 等	購 入 図 書			受 贈・そ の 他*			計		合 計
	和漢書	洋 書	計	和漢書	洋 書	計	和漢書	洋 書	
図 書 館	3,267	908	4,175	3,948	925	4,873	7,215	1,833	9,048
文 学 部	5,111	2,861	7,972	1,394	804	2,198	6,505	3,665	10,170
教 育 学 部	861	605	1,466	403	81	484	1,264	686	1,950
法 学 部	1,980	2,179	4,159	4,206	5,717	9,923	6,186	7,896	14,082
経 済 学 部	1,956	2,204	4,160	2,015	262	2,277	3,971	2,466	6,437
教 養 部	3,998	3,512	7,510	312	1,017	1,329	4,310	4,529	8,839
情 教 セ	0	0	0	0	0	0	0	0	0
川 渡 農 場	42	3	45	0	0	0	42	3	45
学 生 部	1	1	2	0	0	0	1	1	2
大 計 セ	58	24	82	0	0	0	58	24	82
応 情 研	7	10	17	0	0	0	7	10	17
サ イ ク ロ	22	25	47	5	170	175	27	195	222
小 計	17,303	12,332	29,635	12,283	8,976	21,259	29,586	21,308	50,894
農 研	427	45	472	165	192	357	592	237	829
選 研	26	107	133	140	294	434	166	401	567
科 研	20	50	70	9	93	102	29	143	172
速 研	151	180	331	52	221	273	203	401	604
通 研	45	115	160	116	528	644	161	643	804
非 水 研	58	135	193	124	465	589	182	600	782
金 研	135	309	444	102	804	906	237	1,113	1,350
小 計	862	941	1,803	708	2,597	3,305	1,570	3,538	5,108
医 学 分 館	2,613	4,352	6,965	874	560	1,434	3,487	4,912	8,399
北 青 葉 山 分 館	1,009	1,039	2,048	540	3,138	3,678	1,549	4,177	5,726
工 学 分 館	2,208	1,336	3,544	1,135	1,979	3,114	3,343	3,315	6,658
農 学 分 館	963	925	1,888	252	86	338	1,215	1,011	2,226
小 計	6,793	7,652	14,445	2,801	5,763	8,564	9,594	13,415	23,009
合 計	24,958	20,925	45,883	15,792	17,336	33,128	40,750	38,261	79,011

*その他: 雑件受入, 管理換を含む。

お 知 ら せ

1. 入庫手続の変更について

本年8月からメインカウンターで掛員に「利用証」を提出していただき、引換えに「入庫証」を受取って、これを胸に付けて入庫していただくことになりました。

2. 開架閲覧室新着雑誌コーナーから

○照明について

7月中旬、当コーナーの照明器具付設工事を行

い、照明を明るくしました。今までご不便をおかけしましたが、より一層のご利用をお待ちしています。

○禁煙について

7月27日(月)から、同コーナーは禁煙となりました。この場所の換気が不十分なことと、利用者の方からの要望によるものです。

どうぞご協力ください。

☆ 永 年 勤 務 者 の 表 彰 ☆

本学創立記念日にあたる6月22日(月)、松下会館において、東北大学永年勤務者表彰式が行われました。

本学に通算20年勤務し職務に精励されたことにより、学長から表彰者1人ひとりに表彰状と記念品が授与されました。

今回表彰された図書館の方々は、次のとおりで

す。

総務課学術情報掛長	湯本 一義
整理課事務官	前田 裕子
〃 〃	塚田 弘子
閲覧課 〃	星 政則
農学分館事務官	森脇 ちか
〃 〃	湯本 智子

人 事 異 動

発令年月日	旧 官 職	氏 名	新 官 職	備 考
62. 8. 1	医学分館長	笹 野 伸 昭		解 任
〃		勾 坂 馨	医学分館長	併 任
〃	閲覧課 事務補佐員	後 藤 美登利		辞 職
〃		大 槻 賢 信	閲覧課 事務補佐員	採 用

前回発行の人事異動の事項について、記載もれがありましたので、下記のとおり追加訂正してお詫びいたします。

発令年月日	旧 官 職	氏 名	新 官 職	備 考
62. 3. 31	農学分館長	堀 裕		停年退官
〃	医学分館 事務長	桜 田 俊一郎		定年退職
〃	医学分館 総務掛経理主任	相 原 敬三郎		〃
〃	〃 事務補佐員	千 葉 なおみ		辞 職
〃	北青葉山分館 事務補佐員	村 山 邦 子		〃
62. 4. 1		堀 口 雅 昭	農学分館長	併 任
〃	医学分館 整理掛長	米 沢 彰	医学分館 運用掛長	配 置 換
〃	〃 運用掛長	田 代 寛	工学分館 管理掛長	〃
〃		對 島 庸 二	医学分館 文部事務官	採 用
〃		佐々木 雅 子	〃 事務補佐員	〃
〃		青 木 茂	〃 〃	〃
〃		青 木 繁 昌	〃 〃	〃
62. 5. 1	工学部精密工学科事務室主任	土 田 正	〃 総務掛経理主任	配 置 換
〃	工学分館 文部事務官	湯 本 智 子	農学分館 文部事務官	〃

東北大学附属図書館報「木遣子」 第12巻 第2号(通巻第46号) 発行日 昭和62年8月31日

編集委員長 芳賀 博 編集委員 中島 甫, 湯本一義, 佐藤博子, 高橋 京

発行人 松川 衛 発行所 東北大学附属図書館 仙台市川内 電話 代表 222-1800 (2403)